

自然災害の遠隔観測を安全&低コストで

高知県に本社を構えるオサシ・テクノスは防災分野の屋外計測器専門メーカーだ。「大地の声を伝えます」をキャッチフレーズに、防災観測機の製造販売からシステム提案、保守サービスまでを手がける。

防災観測機器のエキスパートである同社は、新たに「地すべり遠隔自動観測システム

テム(NetMAIL-1)」を開発。auのポケット通信モジュールを内蔵した計測機器が自動観測する。データはパナソニック電工ロケーションシステムズが提供する閉域ネットワーク網の遠隔監視制御サービス「ラピキャス」を介して監視者の携帯電話やPCへ送信される。

地すべり遠隔自動観測システム



業種	屋外計測器製造業
活用分野	顧客の利便性向上、導入・運用コスト削減
テクノロジー	パケット通信機、業務アプリ

監視側のPCでは送信データを受け取ると専用処理ソフトが自動開封してグラフ化されるほか、計測器が異常を感知した場合には緊急警報メールが携帯電話などに送信される。さらに、ソフトウェアの更新もリモート操作できるなど大半の監視や管理作業を遠隔地から行うことが可能だ。

こうしたモバイル通信に加え、ソーラーパネルとバッテリーベースの駆動方式を採用しているため、通信回線や電源確保が難しい場所への設置にも向く。

国土の7割強が山地に占められ土砂災害などの危険地域が広範囲に存在する日本では、監視体制の構築は不可欠。導入・運用コストや設置環境の難しさを乗り越え、事実上メンテナンスフリーのNetMAIL-1は、こうした課題の解決につながると期待されている。